

対策工提案

補修を行う場合には、劣化メカニズムを明確にしたうえで、適切な補修方法を選定しなければなりません。

構造物の置かれている環境条件や劣化の状況、今後の供用計画によっては、経過観察や、構造物の再構築という選択も必要となります。補修工法の選定にあたっては、各種補修工法の特徴、適用条件、施工条件、費用等の留意点を十分に把握したうえで、選定しなければなりません。当社では橋梁全体を調べ、各種補修工法の得失を十分に理解したうえで、その構造物の劣化状態に応じた補修工法の提案をさせていただきます。

